

# 活動レポート

日本技術士会北海道本部 社会活動委員会

## 北方海域技術研究委員会

文責：北方海域技術研究委員会 幹事長 佐藤 規之

### 室蘭市において現地見学会と講演会を開催

## 令和 4 年度 定例会 活動報告

### 1. はじめに

北方海域技術研究委員会では 2022 年(令和 4 年)10 月 14 日(金)、室蘭市にて北海道開発局室蘭開発建設部、室蘭市の後援のもと「令和 4 年度 定例会」を開催しました。コロナ禍により人の移動が伴う行事を自粛していたため、3 年ぶりの地方開催となりました(前回令和元年度は留萌での開催)。

当日は 33 名(うち日本技術士会会員 11 名、北海道本部会友 4 名)の参加を得ることができました。本定例会は現地見学会と講演会の二部構成で実施し、現地見学会では地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部栽培水産試験場の見学を、講演会では開催地とゆかりの深いご講演 2 題の内容にて開催しました。

以下に本定例会の内容をご報告します。

### 2. 現地見学会

現地見学会は 23 名の参加者に恵まれ、栽培水産試験場の見学を行いました。

まず、栽培水産試験場の施設や事業の概要について、ビデオ視聴を行いました。



写真-1 飼育棟での見学の様子

次に、飼育棟へと場所を移し、マツカワ、サクラマス、マナマコなどが育苗・飼育されている水槽を見学しました。見学にあたっては、栽培技術部の清水部長より、魚種ごとの種苗生産・中間育成技術について解説いただくとともに、水温・水質調整のために複数の配管があるといった施設の特徴や、ふ化や飼育における工夫などをお話いただきました。

最後に、試験場内の見学スペースにて、調査研究成果がわかりやすく展示されたパネルや標本、水槽を視察しました。

### 3. 講演会

講演会は、室蘭市幸町の室ガス文化センターにて行いました。

当研究委員会の櫻井代表による開会挨拶および定例会の趣旨説明を皮切りに講演会が始まりました。

その後、当研究委員会の石川幹事の司会により、ご講演 2 件の内容にて開催しました。

#### 3-1. 講演 1

東海大学生物学部非常勤講師、日本クジライルカウォッチング協議会会長、国際観光学研究センター客員フェローで室蘭市在住の笹森 琴絵 氏を講師としてお招きし、『海の生き物とわたしたち』と題してご講演いただきました。

ご講演は、北海道周辺の海域で見られるクジラやイルカの解説から始まり、海ごみ問題として結束バンドが巻き付いているイルカの写真や、ゴーストフィッシングの実態として漁網が巻き付いたウミガメなどショッキングな写真が紹介されました。また、近年登別や室蘭の海岸に本来暖海に生息する生物が漂着する異変が起きているとの説明がありまし

た。

こうした海洋動物を脅かす環境問題に対し、「クジラやイルカが地元の海において身近な存在であると知ること、海の問題への興味や関心が生まれる」との考えから、体験ツアー、講演、展示など、市民への啓発活動を実践してきた取り組みが紹介されました。

また、ザトウクジラの尾びれの特徴に基づく個体識別情報を小笠原や沖縄の専門家と共有することで、個体の回遊状況が判明するなど生態調査の成果が紹介されました。その上で、海に関わる発見・問題・課題を社会に広く伝えるために、科学技術界からの発信とともに、教育・観光との協働関係の構築が重要との示唆をいただきました。

質疑応答では、市民への海の問題に関する啓発活動における市民の反応や意識の変化について質疑が行われました。



写真-2 笹森 琴絵 講師

### 3-2. 講演 2

室蘭市副市長の白熊 良平 氏を講師としてお招きし、『室蘭港 150 年の歩みと未来』と題してご講演いただきました。

ご講演は、今年、室蘭港が開港 150 年、市制施行 100 年を迎えたことの紹介を皮切りに、北海道開拓時代に森蘭航路の開港から始まった室蘭港が、石炭の積出港、鉄の街へと成長を遂げ、現在は自動車部品をはじめとする「鉄鋼・ものづくり」、石油輸送やバイオマス発電などの「エネルギー」、世界最大級のクルーズ船の受入など「にぎわい・交流」の役割を果

たしているとの説明がありました。

次に、「室蘭港のゼロカーボン」のテーマで、室蘭市では、水素吸蔵合金などものづくりの技術集積を活かし、早くから水素の可能性に着目した取組を開始していたことに加え、近年では、洋上風力発電関連産業の基地として注目を浴びており、民間企業の室蘭港への進出が進んでいることが紹介されました。今後、室蘭港では、洋上風力発電設備の製造・組立拠点、水素エネルギー輸送拠点、カーボンニュートラルポートを目指す取組を進めていくとの説明がありました。

質疑応答では、室蘭港における造船業の状況等について質疑が行われました。



写真-3 白熊 良平 講師

## 4. おわりに

本定例会は、現地見学会と座学を通じて、水産資源の増殖の実態について学ぶとともに、海洋動物を取り巻く環境問題と啓発活動の実践状況と今後のあり方、また室蘭港のこれまでと未来に果たす役割について知見を深める事が出来ました。環境や産業構造が大きく変化する時代にあって、北方海域は様々な課題を抱えていますが、本定例会は改めて現場から学び、視野を広げる有益な機会となりました。

最後にご多忙中、快くご講演をお引き受けいただいた両講師と、現地見学会でご協力いただいた栽培水産試験場の皆様、またご後援いただいた北海道開発局室蘭開発建設部、室蘭市の皆様に心から御礼申し上げます。